

創設の心「人間愛と郷土愛と」

施設長 佐々木 正

昭和後期になり、少子高齢、核家族、人口流失、人口減少の流れがしだいに速度を速め、それに伴う医療、介護、福祉への具体的な対応は急務でした。老人保健法が改正されたのが1986（昭和61）年11月。“滑川市に老人の療養施設がなく、寝たきり状態で加療されている多くの老人を、地元で、家族や親せき知人の近くで療養させてあげたい！”山田禎一先生と中島裕喜先生が立ちあがりました。準備期間は2年半。1989年1月8日、昭和が終わり、平成元年がスタートして3カ月、4月8日に県下の先陣を切って、老人保健施設なごみ苑が誕生しました。①医療福祉の総合的ケアサービスの提供②家庭復帰をめざす③在宅支援④地域に密着した開かれた施設を基本理念に、106床の出発でした。増加する認知症に対しては、平成4年4月、富山県で最初の認知症専門棟44床を増設、専門リハビリ機能を有する県内で最多の150床の施設になりました。共働きが非常に多い富山県です。そのニーズに対応するため、年間無休のデイケアと短期入所のショートステイを導入、細かな配慮がうかがえます。

郷土を愛し、隣人を愛し、“「今ここに」を大切に、こころ豊かに楽しく生活し、利用者と全職員が共に生きる”。なごみ苑の創設理念と介護実績は、滑川市および周辺地域の方々から評価と信頼を受け、充実した施設に成長していきました。在宅支援施設でしたが開設間もなく、入所困難、入所待ちの状態が長らく続きました。中島先生は創立20周年記念を契機に、小生に後を託し、施設長を勇退されました。先生が創り、みんなが育てたなごみ苑は順風満帆です。風に乗りながら、乱さないように、壊さないように、それだけを念頭に、お引き受けして10年。30年前の初心を守り、アットホームななごみ苑が、「今ここに」あります。在宅支援施設での唯一の変化は看取りが増えていることです。看取りは、命の終わりと人間の絆のステージです。温かく穏やかな別れを一体となって祈り、願いながら、命、絆、人生と向き合い、自身を研鑽するステージです。感謝されるステージを全員でつくりましょう。なごみ苑は大変順調な道を歩んできました。しかし、医療も介護も在宅指向という国の施策は、私たちに厳しい対応を迫ります。少子高齢、核家族、人口減少が進むなかで、働き手不足も深刻です。「この国の形」はどうなるのでしょうか？不安もあります。しかし、剣と富山湾に見守られ、学び、歩んだ30年。わたしたちのなごみ苑が答えます。“郷土を愛し、隣人を愛し、こころ豊かに楽しく共に生きなさい！”さあ、みなさん！いつものように、笑顔と涙のケアを続けていきましょう。30周年、おめでとうございます。最後に、1日24時間、365日、サポートしていただいている厚生連滑川病院に心から感謝いたします。そして、医師会の諸先生、ありがとうございます。これからもよろしく願いいたします。



「今ここに」を大切に
心豊かに楽しく生活し
利用者と全職員が共に生きる

社会福祉法人 周山会

老人保健施設 **なごみ苑**

グループホーム **粹交舎滑川**

指定居宅介護支援事業所 **なごみいきいきセンター**

生活支援ハウス **なじみ**

デイサービス **滑川倶楽部**

富山医療福祉専門学校

やなぎはら保育園

サービス付き高齢者向け住宅 **早月の郷**（平成30年12月開所予定）

30th
Anniversary

2018年4月8日
社会福祉法人 周山会
老人保健施設 **なごみ苑**



次の30年を目指して

理事長 小林 寿夫

前理事長の山田禎一が平成元年4月になごみ苑を開設して、約30年が過ぎようとしています。この間の周山会の発展と地域に愛されてきたなごみ苑の成長は、山田禎一前理事長、中島裕喜前施設長、佐々木正施設長をはじめとする職員の皆様方のたゆまぬ努力の賜物であり、心から敬意を表したいと思います。30年と一言に申し上げてもそれは単調な日々の繰り返しではなく、毎日毎日が違う一日であり、なごみ苑を支えてくださった一人一人の努力も日々違ったものであったと思います。

丁度、本原稿を書いている日の皇室会議で、2019年4月30日に天皇陛下が退位され、5月1日に皇太子が天皇に即位されることが決まりました。大きな時代の曲がり角に当たると実感しています。平成とともに生まれたなごみ苑が、30周年を迎える時に平成が幕を閉じると言うのも、何か因縁めいたものを感じます。この30年間に世の中は激変しました。なごみ苑とともに歩んできた平成とはどんな時代だったのでしょうか。

平成7年の阪神・淡路大震災、23年の東日本大震災などの災害で、一瞬にして何千、何万人の命を奪う自然の猛威の前での人間のちっぽけさを思い知らされました。一方、科学技術の進歩により日常生活は大きく変わりました。平成の初め頃にはポケットベルを使っていましたが、その後インターネット、携帯電話、スマートフォンの爆発的な普及で、我々の生活はこれらの通信機器なしでは成り立たないものになりました。人が機械に使われている時代です。このことは、300万年前に人類が初めて道具を使用した時から予想できたことではあったと思います。なぜなら、人類は技術を発達させながら、進化し文明を作り出してきた生物だからです。人間そっくりなロボットのアンドロイドで有名な石黒浩博士は「これからの環境の変化に有機物である人間の肉体は耐えられないであろう。つまりさらなる人間の進化はその体を機械化することである」と言っています。わずか30年の平成の時代に経験した“災害と技術の進歩”というキーワードの中に今後の我々を考えるヒントがある様な気がします。

30年を迎えたなごみ苑も今後様々な困難に出会うことと思います。その度に柔軟性を持って対応して行かなくてはなりません。30年後の社会はどうなっているのか想像さえつきません。平成とともに歩んできた30年の日々の活動を教訓に、あるべき姿を意識しながら、次の30年を目指し一日一日を大切にしていきたいと思います。今後ともなごみ苑をよろしく願い申し上げます。



認知症についての爆笑劇

介護予防体操

在宅復帰・地域交流
出前講座
利用されている方の在宅復帰や在宅生活を支援地域に根ざした施設になれるよう行っています。

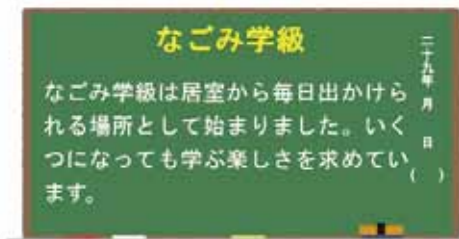


知って支える認知症講座
高校訪問



薬剤師による研修

笑顔を生み出すNo.1施設を目指して



なごみ学級 1周年にて
利用者さんと赤飯作り



「なごみ学級の校歌」職員作詞作曲



授業風景



2017.10.11 撮影 総勢219名

沿革

2008

少人数のグループに分け、家庭的な雰囲気の中での介護(ユニットケア)開始
佐々木正施設長就任、北日本新聞地域社会賞を受賞

2010

4階大浴場改装により各フロアに自立サポート特殊浴槽「ボランテ・エコ」導入(裕の湯、喜びの湯)
山田禎一理事長が滑川市名誉市民栄誉賞受賞

2011

東日本大震災のボランティア派遣(派遣延べ人数55人 延べ日数10日間)
派遣先、介護老人保健施設ひらたりハビリテーションセンター(福島) 気仙沼高校(宮城)
嚥下困難の方でも安全に美味しく食べる事が出来るソフト食を開始

2014

電動ベッド設置(120台)

2015

ロボット型歩行器「POPO」導入
デイサービス「滑川倶楽部」開所
なごみ福祉避難所に滑川市より指定を受ける
滑川市中野島地区対象「認知症講座」を開催(滑川倶楽部)

2016

小林寿夫理事長就任
第26回全国老人保健施設大会において優秀奨励賞受賞する
利用者の通いの場所「なごみ学級」を開校する

2017

介護教室、出前講座開始
KNBラジオ「トキメキ!ねんりんクイズ」公開生放送に出演
機関誌「老健」にて運動会マスコットの写真掲載

2018.4.8

創立30周年を迎える

東日本大震災のボランティア派遣



気仙沼高校にてボランティア活動

福祉避難所指定



大規模な災害が起きた場合
要援護者を受け入れます



富山県総合防災訓練に参加

地域に密着したNo.1施設を目指して

食事作り及び家事練習



在宅生活・自己実現のサポート

在宅生活での役割や
仕事を持つ事、自分
らしい生活を送るこ
を支援します



ロボット型歩行器による歩行練習

スキルアップ研修の導入



口腔ケア実践研修



ターミナルケアについて

スキルを高め、キャリアを積み
プロ意識を高めて、チームで質
の高いサービスを提供します